

ウィーン経済大学日本語コース 機関報告

1. 機関概要

所属	ウィーン経済大学スラブ語研究所		
所在地	Institut für Slawische Sprachen , Wirtschaftsuniversität Wien Roßauerlände 23/ 2.Stock , A-1090 Wien, AUSTRIA		
設立	1972年に日本語コース開設 後に日本語は卒業資格試験（前期課程・後期課程）の選択科目の1つとなる。		
教員数	オーストリア人 1名、日本人 3名（4人とも非常勤）		
学生数	日本語入門集中コース	約 40名	
	前期課程 日本語	約 20名	
	後期課程 日本語	約 10名	

2. 日本語コースの内容

初級入門集中コース	週に90分×2コマで2学期間		
前期課程日本語	冬学期	演習Ⅰ、文法Ⅰ、会話Ⅰ、ビジネス会話入門（各90分）	
	夏学期	演習Ⅱ（135分）、商用手紙文読解（45分） 文法Ⅱ、会話Ⅱ、日本事情（各90分）、	
後期課程日本語	冬学期	演習Ⅲ、独和・和独翻訳、日本語セミナー（各90分）	
	夏学期	経済日本語（90分）	

使用教科書は、各科目の担当者が作成したオリジナルテキストや、いろいろな教科書から集めたコピーなどが多い。学生の専攻によって必要単位が異なるが、前期課程修了時には卒業資格試験Ⅰ（初級修了程度のレベル）がある。

後期課程では、新聞記事などの生教材も使用。日本語セミナーおよび、卒業資格試験Ⅱは、ウィーン大学日本語研究所の教授によって行われている。

3. 現在の問題点および課題

学生は経済学、商学などそれぞれの専門の勉強が忙しく、しかも働きながら大学に通っている人も多いので、途中で日本語をやめてしまう人が多い。前期修了に至るのは毎年十名前後だが、卒業資格試験Ⅱに日本語を選択する人はほとんどいない。EU通貨統合に参加するための財政緊縮政策で、大学の予算もだいぶ減らされ、当大学の日本語のように学生数が少ない科目は、存続の危機にさらされている。

よって今後は限られた時間数の中で、内容の充実した授業を目指すとともに、数の上での実績もあげていくことが必要とされる。

2000年9月 栃木由香